

町内全域（北方町）

令和元年度事例

【地域の概要】

- 本町は、県の南西部、県都・岐阜市から西約5キロに位置する都市近郊農村である。
- 総面積は517haと狭隘で、85%を市街化区域が占めておるため農薬散布や生活用排水路からの取水によるトラブル等、農住混在によるさまざまな問題が生じるため、従来からの農作業が大変困難な状況になっている。
- 町南東部に昭和63年に土地改良事業にて整備された農業振興地域が約82ha存在し、そのうち農用地面積は約38haで46%ほどを占めている。
- これらの農用地を3ブロックに分け、主食用米と小麦のブロックローテーションによる水田農業を実施している。
- 近年は農家数の減少、農業従事者の高齢化、若者の農業離れ等による農業労働力の低下が問題となっている。

取組開始前の状況や課題

- 現在は町内で1つ「人・農地プラン」を策定している。
- 策定当初より見直しを繰り返し実施しているが、毎年実施されていない。
- 担い手の高齢化・後継者不足。

取組内容

- 昨年度実施した「農地に関する意向アンケート」の結果を利用し、耕作者・所有者の年齢等を落とした地図を作製し、人・農地プランの実質化に取り組む。
- 年に数回、農業者（担い手）・農業委員・JA・農林事務所等で集まり、それぞれの立場より意見をもらう座談会を開催。

今後の展開と方向性

- 人・農地プランの検討・見直しを年1回以上実施。
- 今後更なる担い手への集積を向上させるため、引き続き検討を続けていく。
- 担い手の高齢化、後継者不足を補うためにも新規就農者の確保・掘り起こし活動の強化・法人化を含めた検討を行い、新たな担い手の確保に取り組む。